

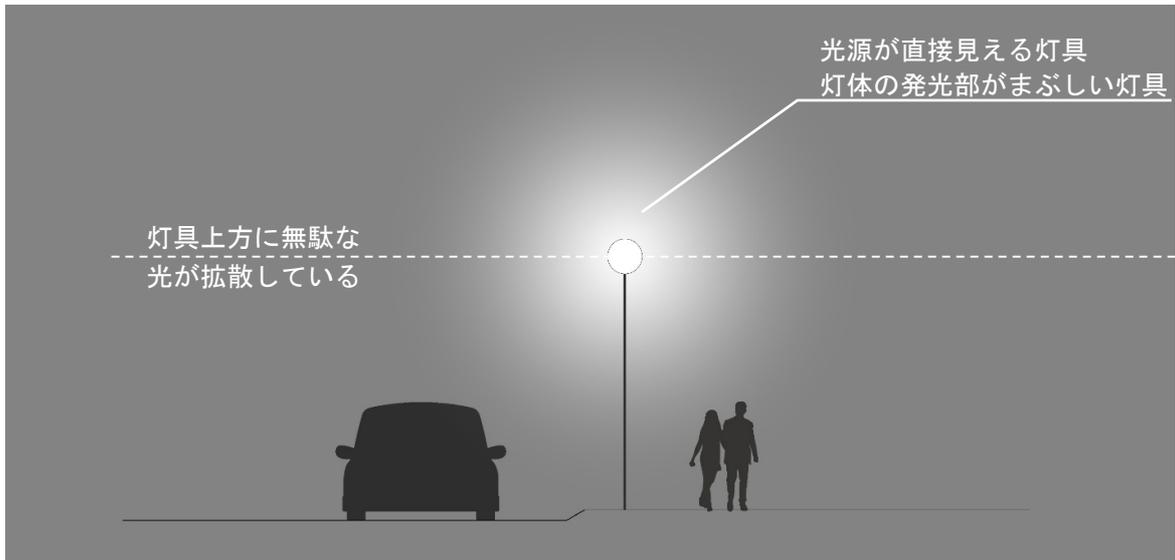
第2章 夜間景観のガイドライン

2-1. 公共空間の照明ガイドライン

道路・港湾・公園・広場など行政により整備される分野の照明計画に関するガイドラインです。

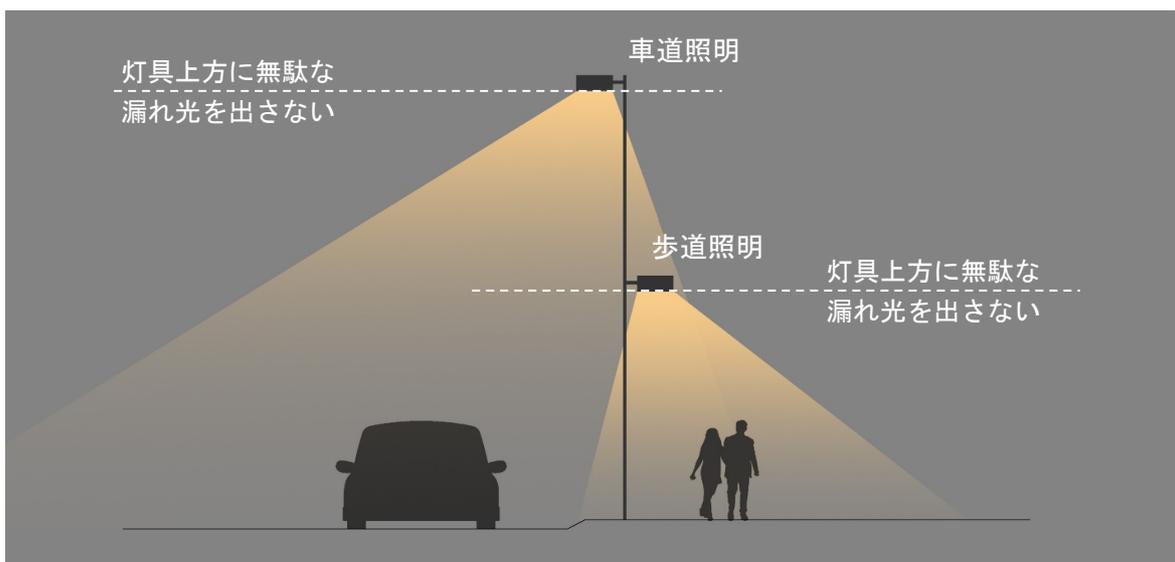
(1) 車道・歩道照明における留意事項

△注意が必要な例



- ・全方向に光が拡散する灯具は、発光部が大きかったり光源が直接見えるものが多く、グレア（不快なまぶしさ）を感じやすいため、このタイプの器具を使用する際は、事前にグレアの影響がないか確認を行う必要があります。
- ・この手法では無駄な光が上方に拡散し、効率よく路面を照らしません。
- ・伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、周辺の落ち着いたあるあかりに対し白色の光は調和しにくいとされています。

○良い例

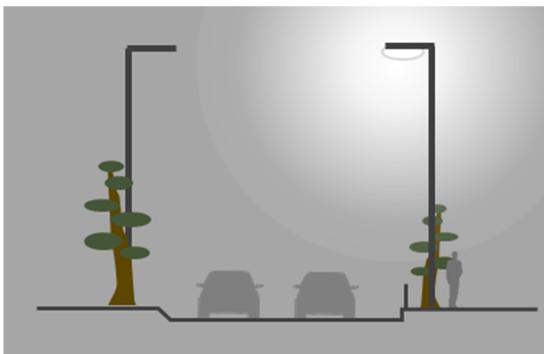


- ・上方に無駄な光を拡散させない灯具、路面を効率よく照らす灯具を採用することが望ましいです。
- ・極力グレア（不快なまぶしさ）を感じさせない灯具（下方配光型・スポットライト型等）を選ぶようにします。
- ・伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、色温度の低いもの（電球色）が落ち着いたあるあかりの景観を創出します。

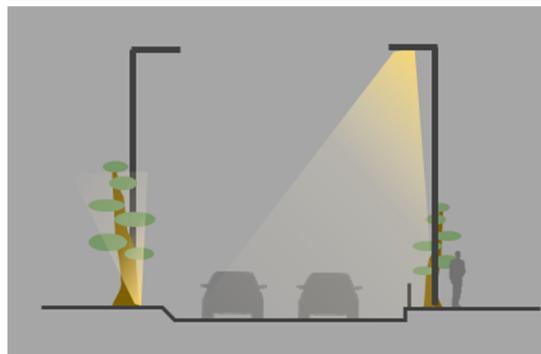
(1) - 1 道路照明

シンプルな下方配光型もしくはスポットライト型で、路面のみを照らすものを選びます。

△注意が必要な例



○良い例



◆下方配光・電球色の道路照明



・発光部が側面から見えないタイプが望ましいです。



・スポットライト型は多方向を照射できます。

(1) - 2 歩道照明

- ・ 欧州の伝統的なスタイルの既存街路灯を維持する場合は、光源のLED化・配光の調整を実施。
- ・ 調光仕様ならなお良い。
- ・ デザインを踏襲しない場合は、シンプルな下方配光のものを選択することも推奨します。

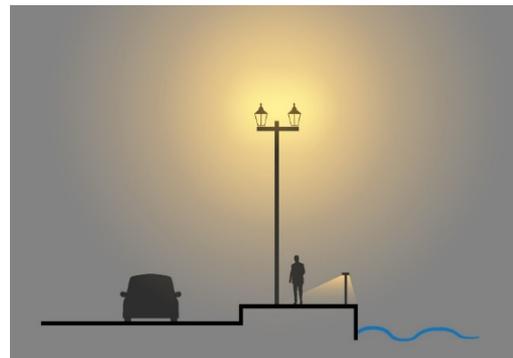
◆欧州クラシックスタイルの場合

- ① 電球色を選びましょう。
- ② 拡散光なので、グレアが無いようにワンランク下の明るさを選択し手すり照明などで足元の明るさを高める工夫をします。

△注意が必要な例



○良い例



欧州の伝統的なスタイル



南蛮文化のルーツをもつ平戸では、他都市以上にクラシカルなイメージは重要です。シンプルな器具に比べて価格は高くなりますが、イメージを重視する場面では、本格的な欧州デザインの器具を採用することも重要です。

◆灯体を変更/更新できない場合

- ① 遮光したい側の灯体内側に遮光板を入れ遮光する（まぶしい場合）
- ② 色温度変換フィルター（シリコンラバーをフィルムで挟んだものなど）をランプに巻き付ける、もしくは灯具内側に貼る（電球色にしたい場合）

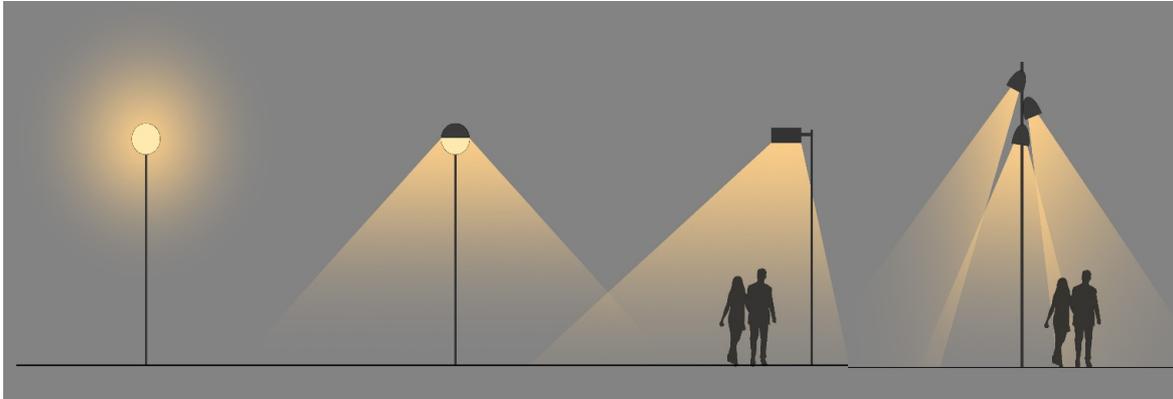
ポール照明を用いる場合

△注意が必要な例

○良い例

○良い例

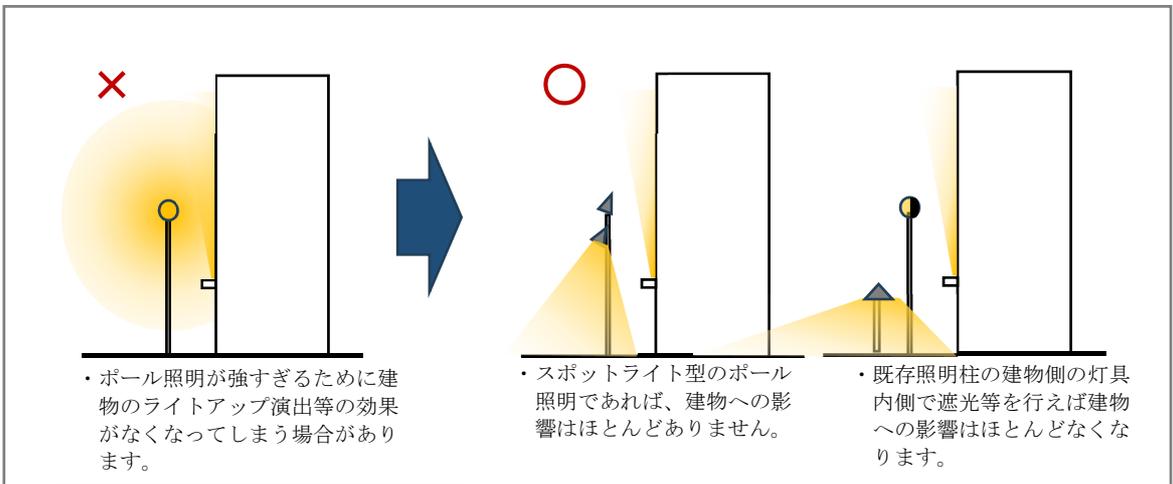
○良い例



- ・全方向に光が拡散する灯具はグレア（不快なまぶしさ）を感じやすく、使用の際は事前にグレアの影響がないか確認を行う必要があります。
- ・この手法では無駄な光が上方に拡散し効率よく路面を照らしません。

- ・上方に無駄な光を拡散させない灯具、路面を効率よく照らす灯具を採用することが望ましいです。
- ・スポットライト型であれば、複数の路面を照射できます。

◆建物ライトアップ等がある場合のポール照明の配光について



- ・ポール照明が強すぎるために建物のライトアップ演出等の効果がなくなってしまう場合があります。

- ・スポットライト型のポール照明であれば、建物への影響はほとんどありません。

- ・既存照明柱の建物側の灯具内側で遮光等を行えば建物への影響はほとんどなくなります。

◆下方配光・電球色の歩道照明



シンプルなポールで路面を照らすタイプ

スポットライトポール

樹木のライトアップをする場合

樹木のライトアップは基本的に「木の根元から幹に沿って照射」します。光源の配光角度は、広角（40°程度）が目安です。また、樹種や樹形によって配灯する位置の調整が必要です。

盗難などに備え公共整備ではボックス設置が一般的で、グレア対策と角度が変わらないようにガードや遮光ボックスを設置します。



- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないような設置方法を検討します。
- ・スポットライトには配光があるので適切な配光の灯具を選択します。
- ・ルーバーやフードが取り付けられるスポットライトはまぶしさを軽減できます。
- ・埋込照明を使用する場合もまぶしくないように注意します。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように設置しましょう。



大きく枝が広がっているサクラやモミジに限っては、幹を照らし上げると同時に外側から枝先方向を照らし上げることも行います。この場合は、照射方向の建物などに差し込まないように注意します。



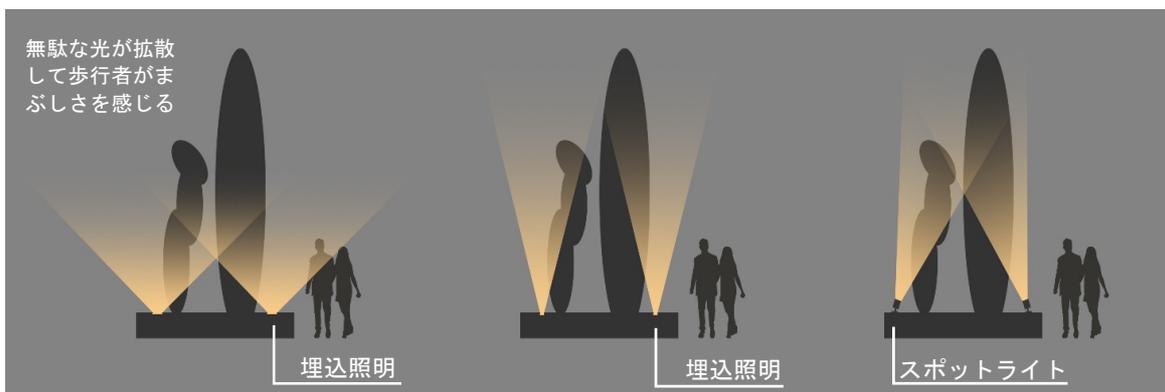
斜めに狙うことは好ましくない。

モニュメントなどをライトアップする場合

△注意が必要な例

○良い例

○良い例



- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないような設置方法を検討します。
- ・スポットライトや埋設型のバリードライトには配光（光の広がり方）があるので適切な配光の灯具を選択します。
- ・ルーバーやフードが取り付けられるスポットライトはまぶしさを軽減できます。
- ・埋込照明を使用する場合もまぶしくないように注意します。ルーバーが取り付けられるものを選びましょう。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように設置しましょう。



低ポール照明（車止め照明）の場合

△注意が必要な例

○良い例

○良い例

○良い例

発光（拡散光）タイプ
低ポール灯

下方配光タイプ
低ポール灯

植栽用間接照明タイプ
低ポール

超小型低位置タイプ
低ポール灯



- ・発光タイプの低ポール灯は最も一般的な低位置照明ですが、強すぎるとグレアになってしまいます。また、点の灯りとして誘導効果はありますが、照明ばかりが視野に入るので環境演出にはなりにくい手法です。
- ・下方配光タイプは路面の明るさを小さな光源でとれるので省エネルギーにもなります。
- ・植栽を照らすタイプも上方に光がでないので、植栽や路面の印象を高める効果があります。



拡散型



間接照明型



露地行燈照明

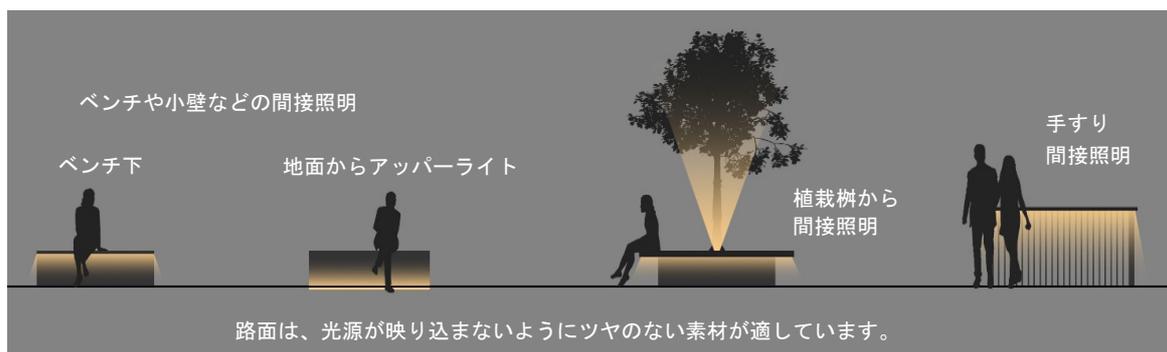


ガーデン間接照明型



ソーラー足元灯

ベンチや手すりなどの間接照明の場合



- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないような設置方法を検討します。
- ・特にベンチなどの屋外家具の間接照明の場合は光源の地面への映り込みに注意します。光があたる面はツヤのない面が最適です。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ見せないように隠します。光源が少しでも直接見ると間接照明の効果が損なわれます。



専門用語の解説

- 照度** 物体の表面が受ける明るさ。単位はルクス (lx) 「地面の照度」「机上の照度」という使い方です。光源や照明器具の強さを表すものではありません。
- 輝度** 人が見て感じる明るさ。単位面積あたりの光源の光束量。単位はカンデラ (cd/m²)
- 色温度** 光源が発している光の色光を定量的な数値で表現する尺度。単位はケルビン (K) ろうそくの炎を 2000K という基準で見た場合の光の色合い (カラー照明とは異なる)。太陽 15000K、PC 画面：9000K、昼光色光源：5000K、電球色光源：2700K～3000K
- グレア** 光源 (及び照明器具) の発する「不快なまぶしさ」
- 光束** 光の強さ (明るさ) を表す。単位はルーメン (lm) 「光源の光束」「照明器具の光束」という使い方。
- 間接照明** 光源を隠し、対象物に照射された光だけが視野に入るような照明手法。
- 鉛直面** 視野の 70～80% が鉛直面からの情報と言われており、照明設計においては壁や樹木など地面に対して垂直方向の範囲を示す。

2-2. 民間の照明ガイドライン

平戸市では、平戸城下旧町地区において、修景町屋とあかりを活かしたまちづくりを通じて地域の魅力・価値を磨くことで、新たな誘客に加え、市民の安全安心と住まう誇りの向上をめざしています。

以下のコンセプトを定め、公共の照明整備と民間の協力によって、平戸らしい魅力にあふれた夜間景観「絵になるまち平戸」の実現に向け取り組んでいます。

コンセプト	平戸らしさを磨き上げ、安全安心で誇りをもって住まうことができ 夜景が誘客の媒体となる、新たな観光・文化都市平戸をめざします
-------	--

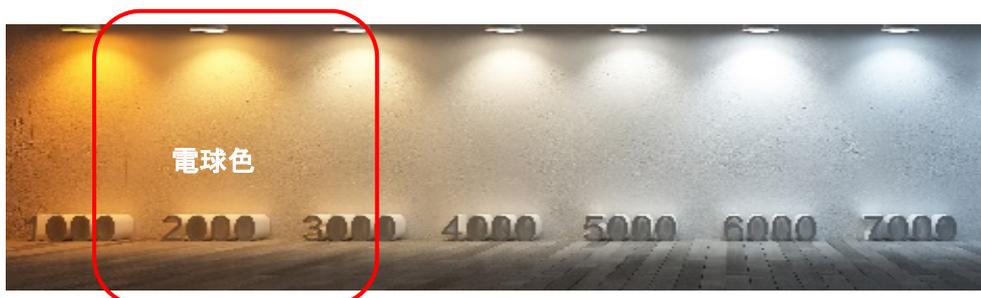
その実現に向け、「誘客できる夜景」「回遊性を高める夜景」「安全安心で住まう誇りを紡ぐ夜景」を具現化するために、以下の6項目の目標を設定します。

- ①あかりの色（色温度）・・・・・・・・・・歴史的なまちなみで情緒的な夜景をめざします
- ②あかりの点灯時間・・・・・・・・・・地域住民に配慮した点灯時間（22時まで）
- ③絵になる風景をみんなで創ろう・・・・・・・・修景町屋を磨き上げる「ほのあかり」の実施
- ④豊かなみどりを活かすルール・・・・・・・・樹木のライトアップは美しさ心地よさと安心感を創出
- ⑤まちの文化資源を磨く・・・・・・・・・・ランドマークとなる民間景観資源を照らす
- ⑥サイン・看板の照明に気を遣う・・・・・・・・上質な観光地にふさわしいデザインへ

（1）あかりの色（色温度）

まちのあかりの色は「電球色」を基本にしましょう

- ・黄色く、暖かみのある光の色を「電球色」と呼びます。
- ・観光地や住宅地には、寒々しい白色の光よりも情緒的で落ち着きのある電球色が似合います。
- ・LED電球をはじめすべての光源に「電球色」があります。（単位はK：ケルビンで表記されています）



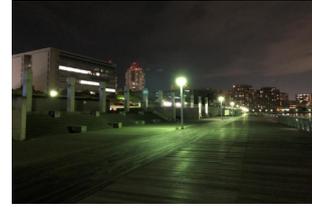
【改善事例】



情緒的な旅館街



雰囲気のある客室



心地よい港湾遊歩道

(2) あかりの点灯時間

門灯など外部のあかりやお店のあかりは、22時までを基本に点灯しましょう

- ・夜のそぞろ歩きが楽しく、暗がりのない安全安心な街並みをつくりましょう。
 - ・タイマーを付ければ、自動で点灯・消灯をすることも可能になります。
- また光源がLEDの場合、従来の60W電球と同じ明るさの7WのLED電球1つあたり5時間点灯で、1ヶ月あたり28円程度の電気料金です。



× 街灯、建物の漏れ光もなく 歩行に不安のある道



◎ 漏れ光や山門の灯りで安心感と情緒のある通り



◎ 閉店後も二階のあかりを自動で点灯している店舗



◎ 露地行灯は、閉店後もまちなみの印象に貢献

(3) 絵になる風景をみんなで創ろう

「ほのあかり」を灯し、誇れるまちなみを市民の力で創りましょう

- ・「ほのあかり」とは、平戸まちづくり運営協議会が実施している「修景町屋をライトアップする」事業です。
- ・平戸の町屋まちなみを「一度は見たい絵になる風景」として醸成し、情報発信することで誘客と地域経済の活性化をはかろうとする試みです。
- ・独自に実施することも可能で、ルールは以下の通りです。

◆ ほのあかり照明デザイン手法の基本スタイル（例）

光 源：LED（代表的機材：LED テープライト 2400K、露地行灯（屋外用）、屋外用吊り照明 他）
色 温 度：電球色（2400K～3000K）
給 電：外部コンセント差し（無い場合は協議）
電気代負担：建物所有者
点 灯 時 間：17:00～22:00

②二階高欄ですりから軒裏を照らします

（窓形状によっては最適ではない場合もあります）

①外壁の白壁部分などを間接照明で照らします

（木製の目隠板を利用してテープライトを隠します）



(4) 豊かなみどりを活かすルール

道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう

- ・昼間は癒しを与えてくれる樹木ですが、夜になると影になり暗がりをつくってしまいます。道や広場から見える庭木をライトアップすることで、安心感と心地よさをまちにもたらしめます。
- ・参道や散策路など民間敷地の緑がまちの景観をつくっている場合も多いので、わずかでも樹木のライトアップができれば、大きな安心感のある貴重なまちの風景となります。
- ・ライトアップは、暖かみのある電球色のあかりで行いましょう。



× 樹木の豊かさが伝わっていない中庭



◎ ライトアップで樹木が主役になった旅館の中庭



◎ 道に面した樹木ライトアップは地域の安全安心に貢献



◎ 神社仏閣の山門や樹林はすばらしいランドマーク

(5) まちの文化資源を磨く

歴史的な建築物や庭園・神社仏閣はまちの誇りです

- ・市内に点在する由緒ある寺社仏閣、マキの並木やソテツ、街の中に多く見られる石積や橋などは平戸ならではの大切な景観資源です。
- ・これらのシンボルの演出やランドマーク（目印や象徴となるもの）のライトアップによって、今まで以上にまちの記憶を大切にし、行ってみたい・住みたい平戸に育てていきましょう。



神社仏閣のライトアップを、水害からの復興まちづくりとして広域連携で実施している例（熊本県）

(6) サイン・看板の照明に気を遣う

下記のような看板は、できるだけ改善しましょう

「眩しすぎる」「派手な色彩」「速い速度で動く・点滅する」「大きな音がでる」

- ・白すぎる内照式の看板は、落ち着いた観光地には適していない場合があります。
- ・既存の看板がある場合は眩しさが夜間景観阻害の原因となる場合もあるので、ランプ替えなどのタイミングで電球色に変えましょう。
- ・切文字（箱文字）型のバックライト文字や外から照らす板状の看板は、上質な印象や和風のまちなみをつくれます。
- ・提灯や行灯のような和風のもの、クラシカルなアイアンワーク（南蛮風）は情緒があるため、推奨されます。



動くサイネージはなるべく避けましょう



原色の内照看板が適していない観光地もあります。



木製の看板を照らすタイプは落ち着いた印象があります。



内照でも文字のみが光るものやバックライトのものは落ち着いた美しさがあります。

(参考) ホテルや商業施設に適した上質な照明手法の事例

① 漏れ光を活かす

窓あかりの色温度はエリア全体の印象に影響



② 建物外壁への間接照明

施設のランドマーク化・上質化



③ 樹木ライトアップ

幹の明るさによる安心感の確保



④ 屋外用置き型照明

外部空間を心地よくする装置



⑤ 水中照明

プールや足湯など水辺の演出



⑥ 手すり・ベンチ下間接照明

足元の路面に明るさを確保



⑦ 小壁・壁面間接照明

鉛直面の明るさを確保

